

「1年生の『理科授業』(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

現在の小学校指導要領では、1・2年生に「理科」の授業はない。私が小学生の時は、もちろん1年生から理科があって、結構いろいろな活動を記憶している。私はどの曜日にも6年の理科授業を持っているので、白衣で行き来することが多く、1年生にも「どうやら田中は理科の先生ということらしい」と認識されるようになった。

1年生のあるクラスに、化石について興味を持った子どもがいて、担任から「化石の話をしてほしい」と頼まれた。ちょうど担任が出張で不在の午後に、私が授業をすることになった。1年生の「理科の授業」である。しかし、わたしは1年生という学習者をやや甘く見ていた。

最初に「化石とは何か」という話を簡単にして、その後、「どんな化石を知っていますか？」と発問した。「アンモナイト」や「三葉虫」が最初に出ると予想していたのだが、恐竜の名称ばかり連発される。子どもから出た化石は、画にして黒板に描こうと思ったのだが、私は恐竜には詳しくないので、「ごめんなさい、私は恐竜にはあまり詳しくないんです」と謝った。するとすかさずヤジが飛んできた。

「えー！理科の先生のクセに、そんなのも知らないの？意外と馬鹿！」

1年生らしい、なかなかストレートでキツイ一発である。そんなこともあって、次にクラスの授業では、少し注意して発問することにした。



化石についての簡単な説明の場面までは同じだが、そのあとの発問を変えた。

「恐竜や翼竜、それに魚竜ではない化石を知っている人はいますか？」とした。すると「アンモナイト！」と返ってきた。ほっとした。「そうそう、そういう**案もない**とね」とくだらないギャグを一発入れたが、1年生は全員「ポカン」としていて、完全にノーリアクションだった。こういうものは、1年生には通用しないのだと、再認識した。



私は今回、頭足類（イカやタコの仲間）の化石を2種類用意しておいた。一つは北海道産のアンモナイトで、私自身が地元の化石採集の名人と一緒に、河原の転石から見つけたものである。北海道の道央地方は、中生代の地層に恵まれ、世界的にも有名なアンモナイトの産地として知られている。

アンモナイトは属や種が多い。北海道産ものは同定が難しいが、これは恐らく「ゴドリセラス」と呼ばれるもので、北海道でも比較的多く産出するものだ。母岩付きのものを見せることが大切である。